

ぬべく見えたるもをかし

〔辨内侍日記〕上九月〇寛元四年八月、中宮の御かたより、菊のきせわたまいりたるが、ことにうつくしきを、朝がれるの御つばの菊にきせて、夜のまの露もいかにとおぼえわたされて、おもしろく侍しかば、辨内侍

九重やけふ九日の菊なれば心のまゝに咲せてぞみる

〔御湯殿の上の日記〕享祿五年〇天文元年九月八日、きくの御なかまいる、きく大こくうへまいらせらる、きくの御なかとしんのごとくめでたし、御さかづきまいる

〔言經卿記〕慶長八年九月八日辛酉、禁中へ御嘉例菊綿進上了、書狀相添之如此

かしこまりて申入候、御かれるの菊の御なかまん上いたし候、御心へ候て、御ひろうたのみまいらせ候、かしく

ながはしどの、御局へ

とき經

御返事有之、珍重之由也

御ふみのやう、ひろう申候へば、きくの御なか、あいかはらすまいらせられ候、めでたくおぼしめし候、なをく、いく秋久しく御しん上候へのよし、心へて申せとて候、かしく

山しな前中なごんどのへ

〔禁裏番衆所日記〕寶永八年九月八日甲午、入夜有菊綿、參衆醍醐大納言、左大辨宰、相尙房、基雄朝臣、〔年中恒例記〕九月八日、今夕菊を御庭にうへ申也、三所者役也、今夜菊に五色のわたをきせらるる也、御藏より參るを、中薦衆こしらへ被申候て如此也、同く、りたる菊、十二月用迄被置申候也

〔掌中歴上時〕節日由緒

九月九日飲菊酒。魏文帝七歲卽天子位、其性聰明、有聖德、仙人來於王前、持菊曰、是浮酒、今日可飲